

授業科目名：教育の歴史 と教育理論の展開	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：須田康之， 大関達也，谷田増幸
			担当形態：オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の基礎的理解に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
日本及び海外諸国において「教育」という営為の意義がどのように捉えられてきたのか，さらに現代の教育が教育理念や道徳観，教育体系の変遷を踏まえながらどのように成立し，どのような課題が生起しているのかを理解する。			
授業の概要			
日本及び諸外国における教育の歴史と理論について，大関が教育哲学の観点から，谷田が道徳教育の観点から，須田が教育社会学の観点から講義を行う。			
授業計画			
第1回：「人間性とは何か」という問いの歴史的地平（大関）			
第2回：規律訓練システムとしての近代学校の誕生（大関）			
第3回：情報・消費社会における大人－子ども関係の変化（大関）			
第4回：現代社会におけるリテラシーの変化（大関）			
第5回：新たな人間像と教育の創造に向けて（大関）			
第6回：道徳教育推進上の課題と道徳教育の基本的な考え方（谷田）			
第7回：道徳教育及び「特別の教科 道徳」の目標と道徳教育の内容（谷田）			
第8回：道徳教育の全体計画と「特別の教科 道徳」の年間指導計画（谷田）			
第9回：「特別の教科 道徳」の指導における創意工夫とその評価（谷田）			
第10回：教育活動全体を通じて行う指導と家庭や地域社会との連携等（谷田）			
第11回：高度情報化社会における学校の役割（須田）			
第12回：教育の機会と格差の問題（須田）			
第13回：学校の機能不全とその克服（須田）			
第14回：子どものアイデンティティ形成の問題（須田）			
第15回：教室における子どもの学びと教師の成長（須田）			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
使用しない。			

参考書・参考資料等

参考書・参考資料等は適宜紹介する。主なものは次の通り。

- ・アレント，H.（志水速雄訳）『人間の条件』筑摩書房，1994年。
- ・ホルクハイマー，M. / アドルノ，Th. W.（徳永恂訳）『啓蒙の弁証法』岩波書店，2007年（初版：1990年）。
- ・中学校学習指導要領解説 総則編及び特別の教科道徳編（平成29年7月 文部科学省）
- ・土井隆義『友だち地獄―「空気を読む」世代のサバイバル』筑摩書房，2008年。
- ・コルトハーヘン，F.（武田信子監訳）『教師教育学―理論と現実をつなぐリアリスティック・アプローチ』学文社，2010年。
- ・ヘックマン，J. J.（大竹文雄解説、古草秀子訳）『幼児教育の経済学』東洋経済新聞社，2015年。

学生に対する評価

レポートにより，授業への参加態度と理解度を総合的に評価する（満点：100点）。レポートは，3人の担当教員それぞれに提出するものとする。成績評価の観点として次の3点をあげる。

- ・啓蒙主義の時代に成立した人間観と教育理論に含まれる意義と矛盾を理解し，ポストモダンの時代にふさわしい人間形成と教育を自分なりに展望することができるか。
- ・道徳教育に関する歴史や諸理論などについて理解し，自らの学習観を深めることができるか。
- ・学校内外での子どもが置かれている状況を捉えることができ，子どもの成長に及ぼす教育環境の重要性と教師の役割について理解できているか。

授業科目名：子どもの 発達と学校の関わり	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：中間玲子，吉國 秀人，藤崎(湯田)亜由子，水 落洋志，藤原和政
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の基礎的理解に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 発達や子どもを捉える視点，乳幼児期から青年期までの発達と学校教育及び関連する諸課題について学習し，子どもの発達と学校の関わりについての理解を深める。			
授業の概要 授業テーマとの関連において，担当教員がそれぞれの専門領域からテーマを設け，3回ずつの講義を行う。講義はオンライン形式（同期または非同期）で行う。必要に応じて，課題や提出物（事前課題や事後課題を含む）が課される。各回の講義についての具体的な案内は，担当教員がそれぞれ行う。			
授業計画 第1回：発達を捉える視点（1）：系統発生的発達（藤崎） 第2回：発達を捉える視点（2）：文化・歴史的発達（藤崎） 第3回：発達を捉える視点（3）：個体発生的発達（藤崎） 第4回：乳幼児期の発達と教育（1）：子どもの遊びと学び（水落） 第5回：乳幼児期の発達と教育（2）：子どもの育ちと学びへの気づき（水落） 第6回：乳幼児期の発達と教育（3）：児童期の教育との連続性・連携（水落） 第7回：学校と認知発達（1）：素朴理論の実際（吉國） 第8回：学校と認知発達（2）：授業における概念変容（吉國） 第9回：学校と認知発達（3）：知識獲得と興味・関心（吉國） 第10回：青年期の発達と教育（1）：「青年期」とは（中間） 第11回：青年期の発達と教育（2）：青年期の特徴（中間） 第12回：青年期の発達と教育（3）：青年期の変容（中間） 第13回：発達に伴う学校臨床心理学的課題（1）：いじめ（藤原） 第14回：発達に伴う学校臨床心理学的課題（2）：不登校（藤原） 第15回：発達に伴う学校臨床心理学的課題（3）：不適応と心身の不調（藤原） 定期試験は実施しない。			
テキスト 使用しない。必要に応じて資料を配付する。			

参考書・参考資料等

- ・坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子『問いからはじめる発達心理学』（有斐閣，2014年）
 - ・稲垣由子・上田淑子・内藤由佳子編者『子ども学がひらく子どもの未来 子どもを学び，子どもに学び，子どもと学ぶ』（北大路書房，2019年）
 - ・進藤聡彦・谷口明子『教育・学校心理学』（放送大学教育振興会，2020年）
 - ・溝上慎一『現代青年期の心理学』（有斐閣，2010年）
 - ・文部科学省『生徒指導提要 改訂版』（2022年）
- その他，授業中にも適宜紹介する。

学生に対する評価

- ・授業時（事前・事後含む）に提示する課題・提出物（評価割合：100％）に，授業への参加度・貢献度を加味して総合的に評価する。
- ・子どもの発達と学校の関わり及び関連する諸問題に関する理解を評価の観点とする。

授業科目名：学校における防災教育と心のケア	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：岩井圭司， 富永良喜，河田慈人
			担当形態： オムニバス・複数
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の基礎的理解に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
災害は、この30年で約3倍の発生率である。地球温暖化や地殻活動の活動期がその要因と指摘されている。災害に強い町づくり・国づくり及び災害後の心のケアは、わが国のみならず、世界各国の緊急の課題である。本講義の目標は、防災教育と心のケアの両輪を学ぶことである。 地震災害、水災害に関連する緊急対応から生活復旧にむけての対応課題について、過去の災害事例を踏まえて説明する。また、各対応に関連する防災教育の事例を紹介するとともに、災害対応の具体的な問題を取りあげて議論する。 災害時における教員の役割と防災教育のあり方が学校教育の最大の関心事の一つとなり、様々な施策が全国に向けて発信されている。この授業は、本学大学院の修了者が将来、地域の防災教育指導者になることを期待して開講するものである。			
授業の概要			
本授業は大きく5つの部分からなる。①防災教育と心のケアの関連と融合的取り組み、②災害後の緊急対応から生活復旧に向けての対応、③地域防災と防災教育、④ボランティア活動やメディアのあり方、④災害に遭遇した後の心のケア、⑤講義後、受講生が提出したレポート内容について全員で討議し、認識を共有する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション，レポート課題の提示，持続可能な社会と防災教育（岩井）			
第2回：心のケアと防災教育の融合（富永）			
第3回：中長期のサポートのあり方（富永）			
第4回：災害前準備：学校防災計画を中心に（岩井）			
第5回：災害を語り継ぐ：記憶のケア，＜語る＞を支えるケア（岩井）			
第6回：災害と死別：失うことと遺族のケア（岩井）			
第7回：災害と防災・危機管理（河田）			
第8回：防災と危機管理をめぐる制度と計画（河田）			
第9回：被災自治体の状況と学校（河田）			

第10～11回：兵庫県内の防災関連施設の見学（岩井）

第12回：さまざまな自然災害と防災教育（岩井）

第13回：海外の教科指導における防災教育（岩井）

第14回：レポートの発表を聞いて、教員と受講生全員で討論する（その1）（岩井，富永）

第15回：レポートの発表を聞いて、教員と受講生全員で討論する（その2）および授業の総括
（岩井，富永）

定期試験は実施しない。

テキスト

使用しない。適宜，必要に応じて資料を配付する。

参考書・参考資料等

参考書

- ・「復興と支援の災害心理学—大震災から「なに」を学ぶか」 藤森・岩井他 福村出版
- ・「大災害と子どもの心—どう向き合い支えるか」 富永良喜 岩波ブックレット
- ・「3.11とメディア」 山田健太 トランスビュー

学生に対する評価

①各回で課される小課題（ミニレポート，コメントペーパー）（50点）

②期末レポートの内容（50点）

授業科目名：心理教育 アセスメント	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：秋光恵子， 藤原忠雄，細谷里香， 藤原和政
			担当形態： オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の基礎的理解に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】学校心理学の中核概念である「心理教育的援助サービス」の三本柱の一つである「心理教育のアセスメント」について，その理論と方法の基礎的事項から実施法までを習得することを目的とします。 【到達目標】心理・社会面を中心に，学習面，進路面，健康面の各領域において，個人及び集団への適切な支援を行うための基礎資料を提供できるようになることを目指します。			
授業の概要			
授業においては，教員ごとに異なるテーマで心理教育アセスメントの解説と演習を行います。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（秋光恵子）			
第2回：心理教育アセスメントの基礎（秋光恵子）			
第3回：心理教育アセスメントの実際（秋光恵子）			
第4回：性格のアセスメント1：解説（藤原忠雄）			
第5回：性格のアセスメント2：演習（藤原忠雄）			
第6回：学級・学校のアセスメント1：解説（藤原忠雄）			
第7回：学級・学校のアセスメント2：演習（藤原忠雄）			
第8回：学習のアセスメント1：基本的知識（細谷里香）			
第9回：学習のアセスメント2：幼児期におけるアセスメント（細谷里香）			
第10回：学習のアセスメント3：児童期以降におけるアセスメント（細谷里香）			
第11回：学習のアセスメント4：学校における支援への応用（細谷里香）			
第12回：知能のアセスメント1：解説（藤原和政）			
第13回：知能のアセスメント2：演習（藤原和政）			
第14回：知能のアセスメント3：プロフィールの読み取り（藤原和政）			
第15回：知能のアセスメント4：学校における支援への応用（藤原和政）			
定期試験は実施しない。			

テキスト

統一したテキストは用いません。授業中に資料を配布します。

参考書・参考資料等

参考書は各教員が授業中に紹介します。

学生に対する評価

1. 「受講態度（50％）」および「教員ごとに提出を求めるレポート（50％）」により評価します。

「受講態度」は授業中に実施する演習に対する積極的・能動的な参加態度を評価します。

「レポート」は授業中に実施した心理検査等に対して、授業で学んだ基礎的な知識を基盤とした適切な解釈ができているかについて評価します。

2. レポートの詳細は、各教員が授業中に指示します。

授業科目名：教職員の ストレスマネジメント	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：藤原忠雄
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の基礎的理解に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
教職員などの対人援助職は、常にストレスフルな状況に置かれ、ストレスマネジメント（ストレスと付き合い上手になること）は必要不可欠である。そうしたストレスマネジメントの有用な方法の一つに自律訓練法がある。自律訓練法は、Schultz, J. H. (1932)によって創始され、神経症や心身症の治療法として発展してきた。しかし、今日では医学領域における治療法としてだけでなく、心理、教育、スポーツ、産業などの領域におけるリラックス健康法として広く活用されている。			
本授業では、この自律訓練法の基本段階である標準練習を習得すること、ストレスマネジメントの理論と実際についての基礎的基本的理解を深めること、教職員のメンタルヘルスの現状と課題について理解することの三点を目標とする。			
目標が達成されれば、受講者は自らのメンタルヘルスの維持・増進を図ることができるようにするとともに、同僚・友人のメンタルヘルスへの支援者にもなることができる。			
授業の概要：毎回、講義と演習を行う。また、ホームワークとして、自律訓練法習得のための日々のトレーニングを課す。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：授業計画，担当者紹介，受講動機の確認，効果確認 (pre)			
第2回：自律訓練法概説：標準練習の概要・練習の進め方，標準練習(1)：背景公式＜安静＞			
第3回：標準練習(2)：第1公式＜四肢重感＞，自律訓練法の特徴，練習記録の必要性和活用法			
第4回：標準練習(3)：第1公式＜四肢重感＞，自律訓練法の効果，及び効果の判定			
第5回：標準練習(4)：第2公式＜四肢温感＞，暗示の効果（観念運動）			
第6回：標準練習(5)：第2公式＜四肢温感＞，質疑，シェアリング（練習状況）			
第7回：標準練習(6)：第3公式＜心臓調整＞，ストレスマネジメントの理論と実際(1)： 			

第10回：標準練習(9)：第6公式＜額部涼感＞，教職員の現状と課題(1)：就労とメンタルヘルスの現状

第11回：標準練習(10)：総括，時間感覚練習，自律療法の体系，効果確認(mid)

第12回：自律性修正法：特定器官公式・意志訓練公式，自律行動療法，標準練習の誘導スキル(1)

第13回：自律性統合法：空間感覚練習，自律性黙想法：黙想練習，標準練習の誘導スキル(2)

第14回：教職員の現状と課題(2)：教職特性と教師ストレス研究，効果確認(post)

第15回：総括：総合ディスカッション 等

定期試験は実施しない。

テキスト

資料は授業中に配付する。

参考書・参考資料等

参考図書

- ・日本自律訓練学会教育研修委員会（編）「標準 自律訓練法テキスト 第二版」 2012年
- ・松岡洋一・松岡素子（著）「自律訓練法 改訂版」日本評論社 2009年

学生に対する評価

「授業及びホームワークの取り組み（60%）」と「レポート等（40%）」を総合的に評価する。
 なお，「授業及びホームワークの取り組み」では，授業中に行なう演習に対して積極的・能動的に参加する態度，及びホームワーク（習得のための日々のトレーニング）の取り組みを評価する。また，「レポート等」では，心理面，身体面，行動面における自らの変化への気付きや日々の活用に対する意欲等も含めて評価する。

授業科目名：情動・社会性発達論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：藤崎(湯田) 亜由子
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の基礎的理解に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】 人間は社会的な動物である。本授業では，社会生活を営む上で必要となる情動の機能やそのコントロールについて発達の視点から学んでいく。まずは，社会性と情動の発達についての基礎的な知見を学び，その上で情動・社会性の発達の障害（自閉スペクトラム症など）や，その機能の表出や理解，コントロールに困難のある事例について理解を深める。			
【到達目標】 情動・社会性の発達に関する発達心理学の知見について学び，教育の現場でおこる諸問題を適切に理解する力を培うことを目的としている。具体的な到達目標は以下の通りである。 ①情動・社会性の発達について基本的な事項を理解し，説明することができる。 ②集団生活への参加について情動・社会性の発達の視点から理解し，説明することができる。 ③情動・社会性の発達の障害について基本的な事項を理解し，説明することができる。			
授業の概要 授業テーマとの関連において，講義および演習を取り入れて授業を行う。授業はオンライン形式（同期）で行う。適宜グループでの話し合いを含めた演習を取り入れる。必要に応じて，課題や提出物（事前課題や事後課題を含む）が課される。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：情動とは何か 第2回：子どもと親の情動・社会性に関連する現代的問題 第3回：情動の脳科学 第4回：情動・社会性の発達の生物学的基礎 第5回：情動の役割りと発達 第6回：情動の発達とコントロール 第7回：アタッチメントの発達 第8回：気質と個性，パーソナリティの発達 第9回：自己の発達 第10回：社会性の発達と集団参加			

第11回：共感性と道徳性の発達

第12回：情動・社会性の育成（1）就学前教育

第13回：情動・社会性の育成（2）小学校教育

第14回：情動・社会性の発達の障害と支援

第15回：まとめ 総括と質疑応答

定期試験は実施しない。

テキスト

使用しない。必要に応じて資料を配付する。

参考書・参考資料等

- ・近藤清美・尾崎康子（編著）2017『社会・情動発達とその支援』 講座・臨床発達心理学④, ミネルヴァ書房
- ・松村京子編著 2012 『学校における情動・社会性の学習：就学前から高等学校まで』 日本学校保健会出版部

学生に対する評価

授業内課題（70%）、レポート（20%）および、授業への積極的参加・貢献度（10%）をもとに総合的に評価する。授業内課題・レポートでは、授業内容に関する基礎知識の理解と、教育の現場でおこる諸問題を情動・社会性の観点から適切に理解する力を評価する。

授業科目名：子どもの発達支援	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：細谷里香 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の基礎的理解に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 子どもの発達と環境とのかかわりに関する基礎的知識をふまえた上で，保育・教育現場における子どもの発達支援に関する理論と実践例を学ぶ。保育・教育現場における発達支援について理解を深めることを目標とする。			
授業の概要 発達に関する基礎的理解を深めるために，まず，主に子どもの発達と環境とのかかわりについて講義・演習を行います。次に，保育・教育現場における子どもの発達に関する支援ニーズの把握，支援方法について理論を学ぶとともに，受講者による実践研究論文のまとめの発表をもとに具体的実践例を学び，理解を深めるための講義・演習を行います。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：現場のなかでの発達とその今日的課題 第3回：育児・保育を取り巻く環境と支援 第4回：子どもの発達と環境とのかかわり 第5回：現場での支援の考え方 第6回：支援ニーズの把握に関する理論 第7回：支援技法に関する理論的背景 第8回：子どもへの支援 第9回：ペアレンティングへの支援 第10回：保育現場での支援の事例検討 第11回：学校現場での支援の事例検討 第12回：現場での支援のための方法（1）コンサルテーション 第13回：現場での支援のための方法（2）アクション・リサーチ 第14回：現場から発達をみなおすとは 第15回：まとめ 定期試験は実施しない。			
テキスト 使用しない。			

参考書・参考資料等

参考書

- ・H.R. シャプファー（著）無藤隆・佐藤恵理子（訳）『子どもの養育に心理学がいえることー発達と家族環境』（新曜社）
- ・臨床発達心理士認定運営機構日本臨床発達心理士会（編集）『21の実践から学ぶ臨床発達心理学の実践研究ハンドブック』（金子書房）

授業内で適宜資料を配信します。

学生に対する評価

授業への参加状況（評価割合：50％），レポート（評価割合：50％）

「授業への参加状況」では，授業内容の理解度，発表への積極性や明瞭さ，議論への貢献度を評価の観点とします。

「レポート」では，基礎的知識の理解度，論理的な思考力と表現力を評価の観点とします。

授業科目名：発達アセスメントと支援	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：藤崎(湯田) 亜由子
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の基礎的理解に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】			
心理・教育的支援におけるアセスメントは、相手を総合的に理解するための情報収集のプロセス全体を指している。本授業では、心理アセスメントの中でも、特に発達の理解と支援を目的として行われる発達アセスメントに焦点をあて、対象となる子どもの「生きづらさ」を理解した上で、強みや課題を適切に評価し支援につなげていくためのアプローチについて学ぶ。特に、臨床の場でよく使用される標準化された知能検査や認知検査の実際に触れるとともに、その限界についても理解し、検査結果を教育的支援につなげる実践力を培うことを目的としている。			
【到達目標】			
発達アセスメントの目的と内容を適切に理解し、その結果を支援につなげる実践力を身につけることを目的としている。具体的な到達目標は以下の通りである。			
①発達アセスメントの目的と内容、倫理について理解し説明することができる。			
②発達アセスメントの具体的方法を理解し、代表的な標準化検査の結果を解釈し、子どもの発達のプロフィールをつかむことができる。			
③発達アセスメントの結果に基づいて支援計画を構想することができる。			
授業の概要			
授業テーマとの関連において、講義および演習を取り入れて授業を行う。講義はオンライン形式（同期）で行う。心理検査を用いた演習は対面で行う。必要に応じて、課題や提出物（事前課題や事後課題を含む）が課される。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：現代社会と発達支援			
第2回：包括的発達アセスメントと支援			
第3回：様々な発達アセスメントと倫理			
第4回：発達障害の特性と理解			
第5回：知能検査・認知検査・発達検査の概要と目的			
第6回：WISC-IVの構成理論および検査の概要			

第7回：WISC-IVの結果についての解釈と支援

第8回：KABC-IIの構成理論および検査の概要

第9回：アセスメントに基づく発達支援の実際

第10回：家族支援と障害の理解・受け止め

第11回：KABC-IIの下位検査項目の内容と実施方法の概略(1)：認知検査

第12回：KABC-IIの下位検査項目の内容と実施方法の概略(2)：習得検査

第13回：KABC-IIの下位検査項目の内容と実施方法の概略(3)：記録用紙の記入

第14回：KABC-IIの結果についての解釈と支援

第15回：まとめ 総括と質疑応答

定期試験は実施しない。

テキスト

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書・参考資料等

- ・黒田 美保（著），柘植 雅義（監修）2015 『これからの発達障害のアセスメント：支援の
一歩となるために』 金子書房
- ・古田直樹（2018）発達障害児と保護者を支える心理アセスメント：「その子のための支援」
をめざして ミネルヴァ書房
- ・藤田和弘（2019）「継次処理」と「同時処理」学び方の2つのタイプ：認知処理スタイルを
生かして特異な学び方を身につける 図書文化
- ・その他，授業中に適宜紹介します。

学生に対する評価

授業内課題（70%），レポート（20%）および，授業への積極的参加・貢献度（10%）をもとに総合的に評価する。授業内課題では，2つの標準化検査（WISC-IVとKABC-II）の目的と内容，プロフィールの読み取りについての理解を評価する。また，レポートでは，子どもの発達の理論や障害特性などの理解を踏まえて，心理検査の結果を教育的支援や家族支援にどのようにつなげていくかを構想する力を評価する。

授業科目名：発達・学習 支援特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：細谷里香 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の基礎的理解に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 乳幼児期から青年期までの子どもの認知・情動・社会性の発達に関して，基本的知識を踏まえた上で，主に学習場面で見られる問題について取り上げる。子どもの学習問題に対する見方や支援方法について理解を深めることを目標とする。			
授業の概要 まず，発達科学の諸理論を概説した上で，乳幼児期から青年期までの子どもの発達について講述します。その後，主に子どもの学習面における問題について，アセスメントや支援のあり方について理解を深め，考察するための講義・演習を行います。			
授業計画 第1回：オリエンテーション～生涯発達と臨床発達心理学～ 第2回：発達の基礎理論 第3回：社会性の発達 第4回：認知・思考の発達 第5回：言語の発達 第6回：自己意識の発達 第7回：教室で見られる問題と子ども理解 第8回：現代社会における発達支援 第9回：学習のつまずきと発達 第10回：子ども理解のためのアセスメント 第11回：ダイナミックアセスメント 第12回：臨床発達支援の基本的技法 第13回：学習支援についての具体的方法 第14回：事例から支援のあり方を考える 第15回：まとめ 定期試験は実施しない。			
テキスト 使用しない。			

参考書・参考資料等

・参考書：

「臨床発達心理学の基礎」（講座・臨床発達心理学①）臨床発達心理士認定運営機構（監修），山崎晃・藤崎春代（編著），ミネルヴァ書房

・授業の中で適宜プリントを配布します

学生に対する評価

授業参加状況（50％），レポート（50％）

授業参加状況では，授業内で求められる問いや課題に対する論理的な思考力と表現力，授業内での議論への積極性と貢献度を評価します。

レポートでは，発達についての基本的知識の習得度および課題に対する論理的な思考力と表現力を評価します。

授業科目名：子ども理解 と学級経営の心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：秋光恵子
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の基礎的理解に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】			
学級経営において子ども理解は土台となるものです。しかし「教師の子ども理解」のみならず、「人が人を理解する」ことは容易ではありません。そこでこの授業では、「自分を知る」「他者をみる」「他者とのかかわり」というテーマに沿った心理学的な研究成果を通して「人が人を理解する」ことの難しさと重要性についての考察を促し、自身のこれまでの人間関係と学級経営をふり返り、これからのあり様を探索する機会を提供したいと考えます。			
【到達目標】			
心理学的な見地から、「自分を知る」ことの難しさと「他者をみる」際に生じやすい偏りについて理解すること。また、その偏りに気づき修正する手立てを知り、より望ましい「他者とのかかわり」を見出すこと。			
授業の概要			
授業では、心理学的な実証研究の結果を紹介しながら各テーマに関する解説を行ないます。講義を中心とした授業ですが、授業のテーマをこれまでの実体験と照らし合わせ、自分自身と対話をしながら授業内容の理解に努めることを期待します。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：心理学における研究領域と研究方法、その応用について概説する。			
第2回：自分を知る①：心理学において、「自己」という存在をどのように扱おうのかについて解説する。			
第3回：自分を知る②：自己効力感や自己評価の維持という観点から、自己について考える。			
第4回：自分を知る③：ネガティブな自己認知について、原因帰属や学習性無力感との関連から理解する。			
第5回：自分を知る④：自己認知と精神的健康の関連について考える。			
第6回：自分を知る⑤：自分に対して否定的な子どもへの支援方法について考える。			
第7回：他者をみる①：他者認知を中心とした情報処理モデルについて理解する。			
第8回：他者をみる②：他者に対するステレオタイプや偏見とその解消について考える。			
第9回：他者をみる③：教師による子どもの認知の特徴について理解する。			
第10回：他者をみる④：多次元的な子ども理解の方法について考える。			

第11回：他者とかかわる①：他者とかかわりによって個人に生じる現象について理解する。

第12回：他者とかかわる②：援助行動の促進要因と抑制要因について理解する。

第13回：他者とかかわる③：学級の中での援助行動と攻撃行動について理解する。

第14回：他者とかかわる④：子どもの援助行動の促進に対する，学校やおとなの役割について考える。

第15回：他者とかかわる⑤：子どもの成長発達を促進する学級経営について考える。

定期試験を実施しない。

テキスト

テキストは用いず，授業中に資料を配布します。

参考書・参考資料等

授業内容の全般に関わる参考書として下記を推薦します。その他の参考書等についても授業中に紹介します。

- ・池上知子・遠藤由美(著) 「グラフィック社会心理学」 サイエンス社
- ・堀洋道(監) 吉田富二雄・松井豊・宮本聡介(編著) 「新編社会心理学[改訂版]」 福村出版
- ・浦光博・北村英哉(編) 「展望 現代の社会心理学 1」 誠信書房

学生に対する評価

毎授業後に提出する小レポート（45％）と期末レポート（55％）により評価します。

「小レポート」では，授業中に紹介された実証研究の結果を通したリフレクションができているかを評価します。

「期末レポート」では，授業から学んだことからこれまでの自身を再理解し，これからにどのように活かそうとしているかを評価します。

授業科目名：生徒指導と 学校教育相談	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：藤原和政 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳，総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
子どもの問題行動の背景にある心理的要因を，学校心理学などの主要な諸理論等の枠組みで捉えるための機会を提供するとともに，子どもを援助する上で必要とされる専門的知識と技法の基礎を学ぶことを目的とする。 到達目標は次の通りである。子どものさまざまな問題行動の背景には，発達の問題も関連した心理的要因が介在している。その発生メカニズムを理解し，支援していく上で必要な基礎知識と技法についての理解と習得を目標とする。			
授業の概要			
不登校やいじめ等の生徒指導上の諸問題を取り上げる。これらの理解，対応方法として，学校心理学の考え方や，カウンセリングに関する基礎知識と基礎技法についても取り上げ，教師として効果的な対応のあり方を学ぶ。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
①授業の進め方と評価方法			
②学校における生徒指導，教育相談の目的（生徒指導提要の内容を含む）			
第2回：学校心理学の考え方の理解（生徒指導，教育相談との関連について）			
第3回：教師に必要とされる指導行動と勢力資源			
第4回：学校現場における生徒指導・教育相談の実際① 不登校の理解と対応			
第5回：学校現場における生徒指導・教育相談の実際② いじめの理解と対応			
第6回：学校現場における生徒指導・教育相談の実際③ 不適応と心身の不調の理解と対応			
第7回：学校現場における生徒指導・教育相談の実際④ 非行，暴力行為の理解と対応			
第8回：生徒指導，教育相談の考え方とカウンセリングとの関連			
第9回：カウンセリングにおける基礎的知識と技法①			
精神分析とカウンセリングスキル（傾聴，共感技法など）			
第10回：カウンセリングにおける基礎的知識と技法②			
行動療法とカウンセリングスキル（質問，繰り返し技法など）			
第11回：カウンセリングにおける基礎的知識と技法③			
来談者中心療法とカウンセリングスキル（明確化技法など）			

第12回：個別対応の方法と理解（保護者対応を含む）

第13回：集団対応の方法と理解（学級集団を対象とした予防教育プログラムの内容を含む）

第14回：学校における生徒指導，教育相談体制，および，関係機関との連携のあり方

第15回：学校における生徒指導，教育相談の必要性和意義に関する総括

定期試験は実施しない。

テキスト

『学校現場で役立つ教育相談』 藤原和政・谷口弘一 編著 北大路書房

参考書・参考資料等

『生徒指導提要』 文部科学省

その他のものについては，授業の中で適宜紹介，配布する。

学生に対する評価

授業への参加度・授業後のレビューシート・学期末試験を総合的に評価する。

具体的には，授業への参加度（積極的な発表等）30%，授業後のレビューシート20%，学期末レポート50%として，60点以上を合格とする。

授業科目名：子どものメンタルヘルス	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：藤原忠雄
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳，総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
学校心理学の学習面，心理・社会面，進路面，健康面の4領域全てにおける心理教育的支援として活用可能であるとともに，ストレスマネジメントの中核技法でもある「リラクセーション」の理解と習得を目標とする。具体的には，学校で活用できる簡便な技法である「呼吸法」「漸進性弛緩法」「自律訓練法（簡略版）」「動作法（肩の弛め課題）」「イメージ法」に関して，単なる理論学習・体験学習ではなく，習得及び実際の活用ができることを目標とする。目標が達成されれば，受講者は自らのストレス対処法として活用できるようになるとともに，児童生徒への支援である「ストレスマネジメント教育」の推進者として機能できるようになる。			
。			
授業の概要：毎回，講義と演習を行う。また，ホームワークとして，リラクセーション習得のための日々のトレーニングを課す。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：授業計画，担当者紹介，受講動機の確認，効果確認(pre)			
第2回：リラクセーション概説：概念規定，方法・効用，教育における適用の意義			
第3回：リラクセーション(1)：「呼吸法」の理論と実際			
第4回：リラクセーション(2)：「漸進性弛緩法」の理論と実際			
第5回：リラクセーション(3)：「自律訓練法（標準練習）」の理論と実際			
第6回：リラクセーション(4)：「動作法（肩の弛め課題）」の理論と実際			
第7回：リラクセーション(5)：「イメージ法」の理論と実際			
第8回：リラクセーション(6)：「環境調整法－音楽の活用を中心に－」，効果確認(mid)			
第9回：技法の総括(1)：シェアリング①（生理・心理指標の結果），技法の発展(1)：「呼吸法」			
第10回：技法の総括(2)：シェアリング②（体験の感想，質疑），技法の発展(2)：「漸進性弛緩法」			
第11回：ストレスマネジメント教育の理論：ストレスの関連理論の概説，技法の発展(3)：「自律訓練法」			
第12回：ストレスマネジメント教育の実際(1)：導入の工夫，技法の発展(4)：「動作法」			
第13回：ストレスマネジメント教育の実際(2)：展開例の紹介，技法の発展(5)：「イメージ法」			
第14回：ストレスマネジメント教育の実際(3)：活用の留意点，効果確認(post)			
第15回：総括：総合ディスカッション 等			
定期試験は実施しない。			

テキスト

藤原忠雄（著）「学校で使える 5 つのリラクゼーション技法」ほんの森出版 2006年

参考書・参考資料等

使用しない。

学生に対する評価

「授業及びホームワークの取り組み（60%）」と「レポート等（40%）」を総合的に評価する。
なお、「授業及びホームワークの取り組み」では、授業中に行なう演習に対して積極的・能動的に参加する態度、及びホームワーク（習得のための日々のトレーニング）の取り組みを評価する。また、「レポート等」では、心理面、身体面、行動面における自らの変化への気付きや日々の活用に対する意欲等も含めて評価する。

授業科目名：キャリア カウンセリング特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：今西一仁
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳，総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」（文部科学省, 2016）においては、「2030年の社会と子どもたちの未来」を見据え，「学校教育がその強みを発揮し，一人一人の可能性を引き出して豊かな人生を実現し，個々のキャリア発達を促し，社会の活力につなげていくことが，社会的な要請ともなっている」と，児童生徒のキャリア発達を促す取り組みの重要性が指摘されている。また，新学習指導要領では，「学校生活への適応や人間関係の形成，教科・科目や進路の選択などについては，主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと，個々の生徒の多様な実態を踏まえ，一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリング（教育相談を含む。）の双方の趣旨を踏まえて指導を行うこと」と示され，初めて「カウンセリング」の必要性が明記された。 キャリアパスポートが導入され，校種間連携による活用のあり方が問われている現在，児童生徒のキャリア発達を促す指導・援助において，キャリアカウンセリングの理論と技法が必要とされてくる。 本科目では，主に次の点について，講義・演習を行う。 ①学校における生徒指導・教育相談やキャリアをめぐる概念と現代の若者のキャリアに関する言説を踏まえて，児童生徒のキャリア発達をめぐる現状と課題について理解を深める。 ②キャリアカウンセリングに関する基礎理論や技法について理解する。 ③学校教育における進路指導・キャリア教育，進路面に関する生徒指導・教育相談のあり方について整理し，学校教育におけるキャリアカウンセリングのとらえ方と位置付け，その実践的な枠組みを，ガイダンスとの関連において理解する。 ④キャリアカウンセリングに生かすことのできる具体的な理論・技法についての実践的理解を深める。			
授業の概要			
本科目においては，主に学校で行うキャリアカウンセリングについて，理論と実践の両面からとらえる。 まず，生徒指導・教育相談・キャリア教育との関連においてキャリアカウンセリングをめぐる概念の整理を行ったうえで，若者のキャリアをめぐる現状と関連させて，キャリアに関する理論について講義・演習を行う。			

次に、児童生徒の進路面に関する生徒指導・教育相談、キャリア教育との関連において学校の教育活動におけるキャリアカウンセリングの位置づけを検討し、学校におけるキャリアカウンセリングのとらえ方と、学校においてキャリアカウンセリングを効果的に行うための枠組みについて、キャリアガイダンスとの関連において検討する。

そのうえで、実際にキャリアカウンセリングを行うにあたって活用できる技法・理論についての講義を行い、事例検討やロールプレイ等による演習を行い、カウンセリングスキルの習得を図る。

授業計画

- 第1回：生徒指導，教育相談，進路指導，キャリア教育をめぐる用語法
- 第2回：児童生徒のキャリア発達・キャリア形成をめぐる社会的状況
- 第3回：児童生徒のキャリア発達・キャリア形成に関する論考から見えてくる今後の課題
- 第4回：主なキャリア理論 (1) 職業選択理論
- 第5回：主なキャリア理論 (2) 構造理論・職業発達理論 等 小レポート
- 第6回：進路面への心理教育的援助サービスとしてのガイダンスとカウンセリング(1)
- 第7回：進路面への心理教育的援助サービスとしてのガイダンスとカウンセリング(2)
- 第8回：学校におけるキャリアカウンセリングの理論と技法 (1) 理論
- 第9回：学校におけるキャリアカウンセリングの理論と技法 (2) ロールプレイによる演習
- 第10回：児童生徒理解のための理論・技法 交流分析(1) 自我状態・エゴグラムの理解 小レポート
- 第11回：児童生徒理解のための理論・技法 交流分析(2) 交流パターン分析
- 第12回：児童生徒理解のための理論・技法 交流分析(3) ゲーム分析の理解
- 第13回：学校におけるキャリアカウンセリングの実際 (1) 事例検討
- 第14回：学校におけるキャリアカウンセリングの実際 (2) ロールプレイ
- 第15回：学校におけるキャリアカウンセリングの実際 (3) ふりかえり，レポート試験

テキスト

教員から配付される教材

参考書・参考資料等

参考書

- ・渡辺三枝子 2007 新版キャリアの心理学 ナカニシヤ出版
- ・今西一仁 2010 紙上ゼミナールで学ぶやさしい交流分析 ほんの森出版
- ・石隈利紀ら編 2013 よくわかる学校心理学 ミネルヴァ書房
- ・小泉令三ら編 2016 キーワード キャリア教育：生涯にわたる生き方教育の理解と実践 北大路出版
- ・木村周 2018 キャリアコンサルティング 理論と実際 雇用問題研究会
- ・水野治久ら編 2018 チーム学校での効果的な援助：学校心理学の最前線 ナカニシヤ出版

学生に対する評価

授業・課題（30％）および小レポート・レポート試験（70％）で評価する。課題は講義日の終わりに出題し、翌日の講義開始時に提出する（合計2回）。小レポートは、講義日の終わりに2回実施する。レポート試験は最終日に実施し、キャリアカウンセリングについての理論的・実践的理解を基準として評価を行う。

授業における評価では、講義・演習における参加態度・貢献度、課題提出を評価の観点とする。

小レポート、レポート試験の評価では、授業内容の理解や論理的な思考力、表現力を評価の観点とする。

授業科目名：学校臨床心理学演習		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：藤原和政
				担当形態：単独
科 目		大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		道徳，総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標				
学校における教育や指導援助を実践する場合，子ども個人はもとより子どもを取り巻く環境との相互作用にも注目する必要がある。本授業では，子ども個人，環境要因をアセスメントし，適切な教育や指導援助を実践するために必要な知識と技法を学ぶことを目標とする。				
授業の概要				
子どもの心理社会面の発達や，保護者，教師，学級集団の特徴に注目する。その上で，これらの理解や対応方法として，学校心理学の考え方や，カウンセリング・コンサルテーションに関する基礎知識と基礎技法についても取り上げ，教師として効果的な対応のあり方を学ぶ。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション				
①授業の進め方と評価方法				
②スクールカウンセリング，コンサルテーションの目的				
第2回：子ども個人と学校環境との関連について（学校心理学の理論的枠組みの理解）				
第3回：子どもの心理社会面の発達に関する基礎知識① 小学生				
第4回：子どもの心理社会面の発達に関する基礎知識② 中学生				
第5回：子どもの心理社会面の発達に関する基礎知識③ 高校生				
第6回：保護者対応に関する基礎知識と理解				
第7回：教師のメンタルヘルスの基礎知識と理解				
第8回：学級集団の特徴と理解				
第9回：カウンセリングマインドと基本技法（傾聴，受容，明確化など）				
第10回：カウンセリング実習① 小学生を想定したロールプレイ				
第11回：カウンセリング実習② 中学・高校生を想定したロールプレイ				
第12回：カウンセリング・コンサルテーション実習③ 保護者を想定したロールプレイ				
第13回：カウンセリング・コンサルテーション実習④ 同僚教師を想定したロールプレイ				
第14回：カウンセリング・コンサルテーション実習⑤ 校内研修を想定したロールプレイ				
第15回：スクールカウンセリング，コンサルテーションの必要性和意義に関する総括				
定期試験は実施しない。				

テキスト

使用しない。必要に応じて資料を配付する。

参考書・参考資料等

『学校心理学』 石隈利紀 誠信書房

『学校現場で役立つ教育相談』 藤原和政・谷口弘一 編著 北大路書房

学生に対する評価

授業への参加度・授業後のレビューシート・学期末レポートを総合的に評価する。

具体的には、授業への参加度（積極的な発表等）30％，授業後のレビューシート20％，学期末レポート50％として、60点以上を合格とする。

授業科目名：食育の考え方と進め方	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：岸田恵津， 藤本勇二
			担当形態：オムニバス・複数
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳，総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
食育は学校の教育活動全体で取り組むものである。この食育についての基本的な考え方と進め方，及び食育の学習内容・方法に対する理解を深め，食育実践のための資質・能力の向上を図ることを目標とする。			
授業の概要			
講義・演習と事例研究を通し，食育実践の基本的な考え方，食育とカリキュラムマネジメント及び教科等の指導との関連，給食の時間における食に関する指導，食育の評価等を中心に学ぶ。また，受講生自らが食育実践事例研究を行い，学習内容や実践方法について考察する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス，食育の基本的な考え方（岸田，藤本）			
第2回：学校における食育実践1 学習指導要領における食育の位置付け及び幼児教育における食に関する指導，食育の目標と内容（藤本）			
第3回：学校における食育実践2 カリキュラムマネジメントと全体計画・年間指導計画（藤本）			
第4回：教科等における食育1 理科，社会科，生活科における食育（藤本）			
第5回：教科等における食育2 特別活動，道徳，総合的な学習の時間における食育（藤本）			
第6回：関連教科等における食育の授業づくりと展開（藤本）			
第7回：教科等における食育3 家庭科における食育（岸田）			
第8回：教科等における食育4 体育・保健体育における食育（岸田）			
第9回：食事バランスの指導に関する演習（岸田）			
第10回：給食の時間における食に関する指導（岸田）			
第11回：地産地消・食文化の学習と関連付けた食育実践事例研究（岸田）			
第12回：学校における食育の評価（岸田）			
第13回：受講生による食育実践事例研究1 幼稚園，小学校，中学校，特別支援学校（岸田，藤本）			
第14回：受講生による食育実践事例研究2 高等学校等の校種，地域・社会（岸田，藤本）			
第15回：受講生による食育実践事例・食育プログラムの発表（岸田，藤本）			
定期試験は実施しない。			

テキスト

テキストは使用しない。資料を配付する。

参考書・参考資料等

参考書 「食に関する指導の手引 第二次改訂版」(文部科学省)

学生に対する評価

レポート(評価割合40%)，発表(評価割合30%)，受講・演習状況(評価割合30%)

レポートについては，本科目で得た知識の活用・応用力，及び情報収集力を評価の観点とする。

発表については，情報収集力，知識活用力，表現力を評価の観点とする。

受講・演習状況については，関心をもち，意欲的に受講しているかどうか，課題遂行時のグループへの貢献度を評価の観点とする。

授業科目名：情報社会と生活	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：掛川淳一， 澤山郁夫 担当形態：オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳，総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
高度化する情報技術の進展に伴う情報社会の変化の諸相を多面的に理解し，今後の情報社会の中の「学校の在り方」について考える素地を身につける。			
授業の概要			
われわれを取り巻く情報環境の捉え方，情報社会を支える技術，近未来の情報社会におけるキー技術，および学習・教育におけるICTや先端技術活用等について学ぶ。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション〔講義〕（掛川）			
第2回：私たちの生活（1）：人間の情報処理（認知・行動）〔講義・演習〕（澤山）			
第3回：私たちの生活（2）：情報端末の普及と影響〔講義・演習〕（澤山）			
第4回：情報社会におけるコミュニケーション（1）：インターネットやSNSの利用動機〔講義・演習〕（澤山）			
第5回：情報社会におけるコミュニケーション（2）：CMCの特徴〔講義・演習〕（澤山）			
第6回：情報社会における問題解決〔講義・演習〕（澤山）			
第7回：教育における先端技術活用〔講義・演習〕（掛川）			
第8回：Society5.0におけるキー技術〔講義・演習〕（掛川）			
第9回：情報社会における先端技術（1）：センシング，シミュレーションとICT〔講義・演習〕（掛川）			
第10回：情報社会における先端技術（2）：クラウド，ビッグデータとAI〔講義・演習〕（掛川）			
第11回：情報社会における先端技術（3）：ウェアラブル・ユビキタスコンピューティング，VR・AR〔講義・演習〕（掛川）			
第12回：教育における先端技術活用（1）：教育ビッグデータ〔講義・演習〕（掛川）			
第13回：教育における先端技術活用（2）：LAとEDM〔講義・演習〕（掛川）			
第14回：Society5.0における学校教育と情報活用能力の育成（情報教育）〔講義・演習〕（掛川）			
第15回：総括〔講義〕（掛川）			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
なし。 適宜，資料を配付する。			

参考書・参考資料等

- 文部科学省：「新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業（学校における先端技術の活用に関する実証事業・先端技術の効果的な活用に関する実証）」，URL: https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416148.htm
- 文部科学省：「学校における先端技術活用ガイドブック（第1版）」，URL: https://www.mext.go.jp/content/20210623_mxt_syoto01-100013299_001.pdf

学生に対する評価

課題の取り組み状況（評価割合：50%），プレゼンテーションおよびレポート（評価割合：50%）に授業への参加度・貢献度を加味して総合的に評価する。

「課題の取り組み状況」では，積極性や専門的な知識を深めようとするディスカッションの内容を観点とする。「プレゼンテーションおよびレポート」では，情報社会の特質とそれを支える技術体系，社会や生活に及ぼす影響，情報社会における現代的な課題や近未来において生じる課題等に対する視点の深まりを観点とする。